

令和6年度 教育事業（指導者等養成研修事業）
青少年教育施設ボランティア養成講座（32年目）

1 事業概要

高校生・大学生が、青少年教育施設や様々な地域でボランティア活動を行うための基本的な知識・技術を学んだ。講義では、ボランティア活動の意義や体験活動の必要性などを知ることができた。また、当施設法人ボランティアがスタッフとして参加し、参加者と一緒に全ての活動を行った。



2 事業の目的（ねらい）

国立大洲青少年交流の家が主催する教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティア人材を育成するとともに、青少年教育及び人材育成の観点から、地域社会へ貢献しようとする人材の育成を図る。

3 企画のポイント

法人ボランティアが講座を担当し、ボランティア活動の経験や想いを伝えることで、参加者にボランティア活動を身近に感じてもらえるようにした。また、市河氏や柴崎氏の講義では、ボランティア活動の意義や体験活動の重要性について、レクリエーションやグループワークを用いて、参加者が主体的に学ぶことができるよう計画した。

4 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

5 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・(株)愛媛新聞社

6 期日 令和6年5月25日(土)～5月26日(日)

7 場所 国立大洲青少年交流の家

8 対象 教育支援ボランティア活動に興味・関心のある高校生、大学生、専門学校生、社会人等の青少年（29歳以下）

9 参加人数 15名（高校生7名 大学生8名）

10 参加費 3,500円

11 講師 松山東雲短期大学 教授 市河 勉 氏
 愛媛ボランティア学習研究会 事務局長 柴崎 あい 氏
 大洲地区広域消防事務組合 大洲消防署員
 国立大洲青少年交流の家 職員

12 日程

25日(土)

9:00- 9:30 受付
 9:30- 9:45 開講式
 9:45-10:45 [講義・演習]はじめてのアイスブレイク
 11:00-12:30 [講義]子どもたちの“いま”を知ろう
 12:30-13:30 昼食・休憩
 13:30-16:30 [講義・演習]自然体験活動の安全管理
 16:30-18:15 休憩・つどい・夕食
 18:15-19:45 [講義]ボランティア活動の意義
 20:00-21:00 [説明]楽しい!交流の家でのボランティア活動
 21:00-22:00 入浴・休憩
 22:00 就寝準備・就寝

26日(日)

6:30- 9:00 起床・つどい・朝食・退所点検
 9:00-12:00 [講義・演習]ボランティア活動の技術-カヌー編-
 12:00-13:00 昼食・休憩
 13:00-14:00 [講義]青少年教育施設って何?
 14:15-15:15 [説明]法人ボランティアとは
 15:30-15:45 閉講式・解散

13 活動内容

【1日目】

講義・演習「はじめてのアイスブレイク」では、アイスブレイクの手法を学ぶとともに、参加者自身が体験することで互いに打ち解け合う機会となった。講義「子どもたちの“いま”を知ろう」では、子供や体験活動に対する理解を深め、発達段階に応じた体験活動の必要性を学ぶことができた。講義・演習「自然体験活動の安全管理」では、大洲地区広域消防事務組合消防署員から心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の使用方法を学んだ。講義「ボランティア活動の意義」では、視覚障害の方の体験談等を基に参加者同士で考える場面もあり、ボランティア活動の具体的な進め方について学ぶことができた。説明「楽しい！交流の家でのボランティア活動」では、法人ボランティアが自身のボランティア体験や活動に対する想いを伝えた。参加者は先輩ボランティアの説明を熱心に聞き、今後の活動に対するイメージを膨らませ意欲を高めた。



【2日目】

講義・演習「ボランティア活動の技術-カヌー編-」では、カヌーにおける危険予知訓練やカヌー実習を通して、水辺での活動における安全管理を学んだ。また、自然の中で体験活動をする良さを感じていた。講義「青少年教育施設って何？」の講義では、施設職員から、社会教育や青少年教育施設の役割を学んだ。説明「法人ボランティアとは」では法人ボランティアの登録制度について、施設職員が説明を行った。



14 参加者の声

事業後アンケート結果（高校生：7名 大学生：8名）

*満足：93.4% *やや満足：6.6% *やや不満：0% *不満：0%

○自由記述欄（抜粋）

- ・今回の活動を通して、ボランティアは自分を成長させる場であると感じた。また、他人から強制されて参加するのではなく、自主的に意思を持って、活動することが重要であると思った。
- ・人と関わる楽しさを2日間の講義や体験活動を通して実感することができていい経験になった。
- ・事前にボランティアに必要な知識や技術を身に付けておくことの大切さを実感した。

15 事業の成果

参加者の多くが、日頃からボランティア活動に対して興味をもっており、意欲的に事業に取り組んでいた。また、参加者同士が自主的に交流する場面が多く見られ、新たな人間関係を築く良い機会となっていた。アンケートの結果からも肯定的な意見が多くあり、今後の自身の在り方について学ぶ機会になったと思われる。

16 事業の課題

昨年度の参加者数が少なかったことから、今年度は昨年度以上に広報活動に力を入れた。各大学の講義内で宣伝をしたり、施設近隣の高等学校へ出向きVYS部の顧問の先生に説明をしたりしたが、参加者数は思ったより増えなかった。来年度は、より魅力ある内容にしたり、より多くの人に参加しやすい日程を設定したりすることで参加者数を増やしていきたい。また、年間を通してSNS等で法人ボランティアの活動の様子や活躍を発信することで、多くの人が大洲でボランティアをしたいと思いますようにしていきたい。

（担当：企画指導専門職 岡本 和也）